



# 希望の鐘

2024・3・22 発行 文責：菅野 弘尊

## 「伸びる」

校長 菅野 弘尊

降り積もった雪が溶けようやく道路が見えて来たと思ったら、また新たな雪が屋根と道路を覆うという、不安定な天候が続きました。その中でも子どもたちは、動じることなく元気に過ごしています。お子様の修了・進級、おめでとうございます。

年度終わりのこの時期、お子さんたちは1年間の頑張りを伝える通知表を持って帰ります。小さな枠、短い文章ではなかなか学校生活の全てをお伝えすることは難しいのですが、保護者の方には普段の学級通信や学校だより、連絡ノートや懇談、web ページ等を通して1人1人の様子を御理解いただけているものと思います。

その通知表を見ていて、改めて「子どもたちはいいな」と思うことがあります。それは常に伸び続けていることです。単純に身長や体重を見ても、子どもたちはぐんぐんと大きくなっていることが明確です。全校朝会で整列しこちらをしっかりと見てくれる目線は、学期の進行と共に徐々に高くなってきます。一方、私の年代になると、健診で計る身長は毎年数ミリずつ低くなっていきます。姿勢が悪くなったのか加齢による自然現象なのかはわかりませんが、寂しいものです。子どもたちはもちろん、体格だけではなく勉強や友達との関係、様々な活動に取り組む姿勢や意欲など、あらゆる面が前よりも「広く、深く、大きく、高く、多く」なっています。どれをとっても、前向きで嬉しい言葉ばかりです。子どもたちをうらやましがる私も、そのポジティブな姿にパワーを分けてもらっている気がしています。

「子ども叱るな、来た道だもの。年寄り笑うな、行く道だもの。」という言葉、いつも頭の片隅に置くようにしています。いつの間にか大人になった私たちは、子どもの成長のために必要だと思い子どもに多くを要求しがちです。時には叱ったりあきれたりすることもあるでしょう。好き嫌いの事を怒ったり、何度言っても同じ失敗を繰り返す姿に腹を立てたりすることも多々ありそうです。時には子どものことを思い、冷静に「怒って見せる」ことが必要ですが、伸びゆく子どもたちの芽を摘み、可能性を小さく狭めてしまうことは避けたいと思っています。少し難しいのは、子どもたちにとって一歩先、今よりも少し高い目標や行動を促してあげること、同様に必要だということです。せっかく伸びる力をもっている子どもたちでもその場足踏みをしているだけでは、負荷は少ないけれども前に進めないこととなります。

言葉にしてしまうと「伸びる」と簡単な一言になってしましますが、友達や先生たちと関わり、喜怒哀楽を存分に表わしてくれている子どもたちを見ながら、まだまだ一緒に伸び続けられる大人でありたいと願います。

この1年間、本校の教育活動に対し御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございました。



## 離任者挨拶

「ありがとうございました」

事務長 小泉 雅朗

令和2年度より、皆様にはお世話になりました。ありがとうございました。

4年前の施設設備は、かなり老朽化が進んでいましたが、年を経るごとに、グラウンド整備、寄宿舍トイレ水洗化、特別教室棟階段室の雨漏り解消、長寿命化工事での改修等と、徐々に環境が改善されていく様に立ち会えたのは、貴重な経験でした。

新年度も工事は続きます。さらにきれいになった本校で、幼児児童生徒の皆さんが、元気で楽しく学校生活を過ごしてもらうことを願っています。

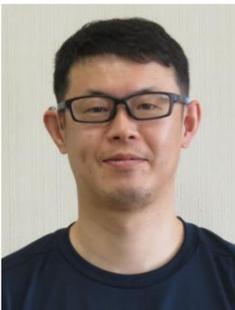


「皆さん、本当にありがとうございました」

工藤 努

2014年に本校に来て、あっという間に10年が経ちました。赴任したときにまだまだ小さかった皆さんが、心も体も立派に成長していく様子を見ることができて本当に幸せでした。また、本校でのたくさんの人々との出会いや経験してきたことは、自分にとって大切な宝物となりました。保護者の皆様、いつも温かく支えていただき、本当にありがとうございました。

高等聾学校へ行っても、本校で学んだことを生かして、全力で頑張ります。皆さんも夢に向かって一歩ずつ努力を続けてください。応援しています。



「また会える日まで」

谷 奈々美

旭川聾学校で過ごした6年間は、あっという間でした。子どもたちからたくさんの素敵な笑顔や活力をいただき、日々を楽しく過ごすことができました。また、ただ教えるだけでなく、学び合うことの大切さを改めて気付かせてくれました。子どもたちの無垢な視点や純粋な気持ちをを通して、私も成長できたと感じています。

札幌聾学校でも子どもたちのために精一杯頑張ります。

6年間、本当にありがとうございました。



「ありがとうございました」

小林 日那

中学部の生徒と過ごした時間は毎日とても楽しく、たくさんの元気をもらいました。幼稚部や小学部の子どもたちも廊下で会ったときに元気な挨拶をしてくれたり、お話ししてくれたり、学部を超えて関わりを持ってとても嬉しかったです。本当に子どもたちの優しさに助けられた1年間でした。この1年の経験を生かして、札幌聾学校でも頑張ります。ありがとうございました。



「ありがとうございました」

濱田 楓

4月に来たときは緊張してドキドキでいっぱいでしたが、子どもたちは明るくて優しく、毎日を楽しみ過ごすことができました。子どもたちの元気な姿を見て、私も元気をたくさんもらいました。また、先生として初めて働き始めて、旭川聾学校での1年間があっという間でした。ここでの経験を活かし、帯広聾学校でも頑張ります。本当にありがとうございました。



「初めての異動」

藪 優希

4月より、北海道旭川永嶺高等学校へ異動となります。新採用職員として着任してから5年間、旭川聾学校の事務職員として勤めさせていただきましたが、あっという間だったなと感じます。初めての異動でハラハラドキドキしておりますが、この5年間、教職員や保護者の皆様から教えていただいたことを次の学校でも存分に活かしつつ、初心を忘れずに、努力してまいります。

またご縁がありましたら、どうぞよろしくお願ひします。



## 育児休業挨拶

「1年後、またお会いしましょう！」

脇瀧 昭平

この度、4月より1年間の育児休業をいただきます。来年度の運動会と文化祭は、観客として皆さんの頑張っている姿を見にきたいと思ひます。再来年度の4月に復帰いたしますので、その際もどうぞよろしくお願ひいたします。

